

第 36 回リハ工学カンファレンス

橋 祐貴

兵庫頸髄損傷者連絡会

8月20日、21日の2日間にわたって、第36回リハ工学カンファレンス from 中国・四国支部がオンラインで開催されました。新型コロナウイルスの影響で昨年に続いてのオンラインでの開催になりましたが、今年のカンファレンスは誰でも無料で参加することができるオープンカンファレンス等、オンラインであることを活かした新しい試みがなされていた大会でした。また、カンファレンスの大会長を私と同じ頸髄損傷者である鈴木さんが務めるという点でも注目していました。

今年のリハ工学カンファレンスはZoomを活用して、通常のカンファレンスと特別企画のオープンカンファレンス、市民公開講座の3つのイベントが開催されました。今回初めて行われたオープンカンファレンスでは、それぞれのテーマについてパネリストと参加者がディスカッションすることができる当事者座談会が行われました。誰でも無料で気軽に参加でき、当事者座談会のテーマも「抱えない介護」や「車椅子選びのための考え方」など生活に身近なものが多かったからか、障害当事者の参加も多かったです。普段の生活では専門家と障害当事者が情報交換をする機会はなかなかないので、当事者と専門家がつながるきっかけになる良い企画だったと思います。CIL 星空のメンバーのミニ四駆の中継は臨場感があって、レースを楽しんでいる様子が伝わってきました。

今回の大会のテーマは「リハ工学が変える!住み続けられるまちづくり」でしたが、リフトなどの福祉機器の活用についての発表が多かったのが印象的

でした。障害当事者が住み慣れた地域で暮らしたいと思っても、介助者の人手不足の問題で実現することが難しい場合があるのが現状です。自分たちの生活を維持していくためにも当事者も積極的に福祉機器を取り入れることが大事ではないかと思いました。そのためには福祉機器の導入や住宅改修、助成制度について適切なアドバイスができる専門家といかにつながることができるようにするのが重要ではないかなと感じました。

2年連続でオンライン開催となったのは残念でしたが、わざわざ現地まで行かなくてもカンファレンスに参加できた点ではよかったです。来年のカンファレンスは対面で開催されるということなので、来年こそは現地で直接顔を合わせてのカンファレンスが行われるのを楽しみにしています。

兵庫頸髄損傷者連絡会